

学校教育目標

笑顔で

かしこく

たくましく

上谷の丘

～ 本当の笑顔と学びがある学校を ～

坂戸市立上谷小学校 学校だより

令和2年 8月 20日 NO.10

文責 校長 柴崎 利美

児童数190名（8月20日現在）

コロナなんかに負けない

本当の笑顔と本当の学びを…

～ 苦難を乗り越え、強い自分を発見しよう ～



おはようございます。今日は始業式。令和2年度2学期がスタートする日です。

何より校長先生がうれしいことは、上谷小のお友だちが無事にそろったこと。夏休み中に大きな病気やケガをする子がいなかったことです。これはとてもありがたいこと。なかなかない事です。特に新型コロナウイルスに関して、みなさんのお父さんお母さんから何も連絡がなかったこと。そして無事に学校でお勉強が始められること。上谷っ子のみなさんが「三密を避ける」ことを守って生活してくれたおかげだと校長先生は思っています。ありがとう。もちろん先生方もみんな元気で今日からスタートできます。

さて、2学期は行事がたくさんある学期です。行事というのは、音楽会や遠足など、上谷っ子みんなが歌ったり演奏したり、クラスで学校を離れてお勉強したり、様々な体験をしたりすることです。とってもワクワクする活動で、楽しみにしているお友だちが多いと思いますが、「新型コロナウイルス」の影響で計画通りに進まないことがあります。どの行事もできるかどうかギリギリまで待ちたいと思います。しかし、良い方向に向かわずその期限が来たら、キッパリと中止にしたり、形を変えて取り組むことがあるかもしれません。とっても残念ですが、みなさんも「もしかして…」という心の準備をしておいてください。長い人生では時に予想もつかなかった、考えもしなかったこともあるのです。東京オリンピックも今年度は見送り、来年度開催予定となりました。私たちは、今日から「新型コロナウイルス」の感染が落ち着くまでは、手洗い・マスク・ソーシャルディスタンスで、手を伸ばした距離をとる。をしっかりと守っていきましょう。また、暑さが落ち着くまでは「熱中症」にも十分に気を付ける必要があります。水分を十分に取ることも含め、人がいないところではマスクを一時的に外すなど、工夫をしてください。授業中・活動中のことについては担任の先生からお話があります。



最後に台風のことについてお話します。昨年度10月、上谷小の学区である東坂戸団地周辺は大きな水害に見舞われました。地域によっては一階全部が水浸しになるほどの水量でした。みなさんがいる教室に例えると、天井近くまで水が入ってきたのです。あとひと月もすると台風がやってきます。大きいか小さいかはわかりませんが、間違いなくやってきます。みなさんの家庭でも今から準備をしている家庭があるかもしれません。万一の時は、お父さん、お母さんの言うことをよく聞いて、避難所や親戚のお宅に行くなど、早めの行動をとるようにしてください。ちなみに上谷小学校も水害時の一時的な避難所となっています。

さて一つ確認です。この夏休みは、お出かけをして旅館やホテルに泊まったお友達は少ないのかなと思いますが、校長先生との約束を覚えていますか？そう「非常口の確認」はしましたか？どうでしょう？みなさんがこの休みに読んだ本は校長先生に紹介してください。用紙を昇降口に置いておきます。校長室前のいつもの青いポストに入れてください。返事を書きます。

今日は「新型コロナ」や「台風による水害」とみなさんの安全面のお話をたくさんしましたが、上谷っ子は「本当の笑顔」「たくさんの笑顔」でお勉強も運動もがんばれるおともだちばかりです。この2学期も「〇〇ができるようになった。うれしい！」を増やしていきます。これで校長先生のお話を終わります。

数える力は = 生きる力 ~ できるようになるためのヒント ~



埼玉新聞8月9日の読書欄に、～写真で理解、気づきの快感「目で見える数字」（雑学ビジュアル写真集「目で見ることば」シリーズ）～という本が紹介されていました。表紙にハリセンボンが膨れて全方位にトゲがたっている写真が載っています。キャッチコピーは「ハリセンボン、実は350本」とありました。ここで写真を見ながらこの350本をどうとらえるかということです。「ああ、そうなの」という子と「え、もっと少ないんじゃないの？数えてみよう」という子。「体の1/4の部分だけ数えてみよう。数えたら後で4倍してみよう。」という子もいるかもしれません。中には「なんだセンボンって言うくせに650本足りないじゃないか。」と怒る子がいたり。「あれ、どのハリセンボンも350本？」と疑問を持つ子がいたり…。つまり「ああ、そうなの」とやり過ごしてほしくないのです。数えることは「力」です。小学生にとっては「忍耐力」かもしれません。お風呂で100数えて出るのも立派な勉強だと思います。数えることは生きる原点。つくづくそう思います。例えば、「どちらが多いか」そして「どちらが有利か」は、本来子どもにとって死活問題です。大人にとっても同様です。二切れのリンゴと三切れのリンゴ。どっちが得？「あれ、三切れの方は薄いぞ??」とか。「数は多いのに変だ」など。年齢が上がれば、「重さを量ってみよう」ともなる。数で表すこと、数に置き換えて考えてみる（客観化する）ことは実に大事な「学び」です。



「家から学校まで何歩で着きますか？正確に数えてください。」という挑戦状を出したいと思っています。昇降口の廊下に10mの目印をビニルテープで付けて、その10mを自分は何歩で歩くのか。では、100m歩くには何歩になるのか。そして、それを目安に自分の家までの距離を予測する。もしかして授業でやっているかもしれませんが、実際に歩いて一所懸命数えるのです。「本当だ…。〇〇〇mだ。」の驚き・感動はひとしおだと思います。

「数」という基準がなければ、世の中なにも広がらない。伝えられない。上谷小は「長文の読解力UP」を目指していますが、その力をつけるために、例えば「〇ページまで〇回読んだ。」「漢字を〇回書いた。」とか、数字が関わっています。そして評価をする時も、例えば読解力は「〇学年は〇%伸びた。」これも数字です。みなさんの身長や体重やも〇kg、〇cmと数字ですね。「大きい」と「かやせてる」は、たくさんの人と生活を営む上では、基準とはならないのです。「数」は不思議ですね。